

場面④隅田川

訳21 なおもどんどん進んで行つて、

武藏（むさし）の国と下総（しもうさ）の国との間にたいそう
大きな川がある。

訳22 それを隅田川という。

訳23 その川のほとりに集まり座つて
(遠く離れた都に) 思いを馳
(は) せると、限りなく遠くへ
来てしまつたものだなあ、と
(皆で) つらい気持ちを嘆き
合つていると、

訳24 渡し守（もり）が、「早く舟に
乗れ。日も暮れてしまう。」と
言うので、

訳25 (舟に) 乗つて (川を) 渡ろう
とするが、人々は皆なんとなく
つらい。京に思う人がいないわ
けではないのだ。

問一 いつ頃の話か?

ア 夕方 イ 昼過ぎ ウ 日没後

訳21 なおもどんどん進んで行つて、
武藏の国と下総の国との間にた
いそう大きな川がある。

それを隅田川という。

訳22 その川のほとりに集まり座つて
(遠く離れた都に) 思いを馳せ
ると、限りなく遠くへ来てし
まつたものだなあ、と(皆で)

つらい気持ちを嘆き合つている
と、

訳24 渡し守が、「早く舟に乗れ。日
も暮れてしまう。」と言うので、

訳25 (舟に)乗つて(川を)渡ろう
とするが、人々は皆なんとなく
つらい。京に思う人がいないわ
けではないのだ。

問二

傍線部の気持ちが生じた原因
は何か。可能性がもつとも高
いものを選べ。

ア初めての川に恐怖を感じたから。
イ川を生死の境目と感じたから。
ウ大きな川で都とのつながりが断た
れてしまいそうだつたから。

このは空白ページです